

コンセプト

浦（迎え入れる人里）ごとにある海業（持続的な漁業）の連携で、質の高い道路空間づくりをととした地域振興

中心となる道路の周辺は、風光明媚なリアス式海岸が続き、緑豊かな山々と優しく人を迎え入れる人里など、多彩な自然と人々が息づく地域である。こうした豊かな自然と人の営みの中で培われた知恵や匠の技は郷土の誇りであり、これらをベースに産業、歴史、文化が築き上げられ、地域の貴重な資源となっている。従って、このような地域が持つ資源を活かし、自然との共生を図りながら、質の高い道路空間をととした地域振興を目指す。

活動方針 1 地域の資産「おしなぎい(もったいない)」の発掘と有効利用

日頃来訪者の目に触れることがなくて地元の人だけが知っている美しい自然景観や、先祖代々受け継がれながら埋もれていた地域資産等を、継続的な調査活動（ロードウォッチング、わいわい懇）を通じて発掘するとともに、各地区に点在する歴史・文化資源や自然資源、体験交流資源等のおしなぎい魅力の再発掘を図る。そして、これら一つ一つの資産を有機的に海の細道でつなぎあわせることにより統一的なテーマを持たせ、地域全体の付加価値を高めて、「地域のおもてなしの力」の向上を図る。

活動事例

・あまべ渡世大学

「あまべ渡世大学」は蒲江全体をキャンパスとした「体感・学び」の大学です。各講座（体験メニュー）の講師陣は全て地元の人達が務めており、学生は県内外から訪れます。東九州自動車道が佐伯まで開通すれば、県外からの学生も増えることが確実です。

